

青森県立高等学校教育改革推進計画第1期実施計画案（案）に関する地区懇談会におけるアンケートの主な意見

分類	No	提出された意見等	意見等に対する県教育委員会の考え方
性 学校規模・配置の方向	1	高い学力の維持だけでなく、コミュニケーション力の向上を図るためにも、（特に、アクティブラーニング）一定の人数は必要だと思います。	各高校においては、大学等への進学や就職等より幅広い進路選択に対応できる教科・科目を開設するとともに、学校行事をはじめとする特別活動等の充実や多様な部活動の選択肢を確保することにより、高校段階で身に付けるべき「確かな学力」、「逞しい心」や学校から社会への円滑な移行に必要な力等を育成することができるよう、基本となる学校規模の標準を、1学年当たり4学級（160人）以上としたところです。また、現在、高校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革が進められるなど、高校教育を巡る環境が変化していく中、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実が求められています。このような主体的・対話的で深い学びの実現という観点からも一定の生徒数が必要と考えています。
へ 通学環境	2	学校配置の考え方①～⑤の中に③公共交通機関の利便性等を考慮とある。 ※地域の公共交通事業者にも早く情報ほしい。（新規路線バスなどは相当の時間がかかるのでお願いします）	いただいた御意見を踏まえ、県、交通事業者、市町村等と相互に連携しながら、公共交通機関による通学手段の確保・充実に取り組んでまいります。
教 員の資質向上	3	先生の質を考えてくださいという意見はもっともだと思った。	基本方針においては、教員が、使命感、協調性、専門職としての高度な専門的知識・技能に加え、新たな教育課題に対応できる力量等を高めることができるよう研修の充実を図ることとしています。また、教員が専門性を十分発揮できる環境を整えるため、教員とは異なる専門性や経験を有する専門スタッフ等の配置の充実を図ります。特に、発達障害等の特別な支援を必要とする生徒に対応している現状を踏まえ、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等専門スタッフの配置の充実を図ることとしています。
そ の他	4	・生徒達が取得できる資格が分かるようにしてほしい。（保護者にも） ・いろいろ（資格を）とれるようにしてほしい。	生徒がこれまでに取得している資格については、それぞれの高校のホームページ等において公表しているところです。 一方で、働く上で求められる知識や技能が高度化するとともに、従来の産業分類を超えた複合的な産業が発展している中においては、基礎的・基本的な知識・技能に加え、職業の多様化に対応できる資質・能力を育み、学び続ける態度を身に付けさせる必要があると考えます。
	5	青森県の未来を考えて計画を組んでほしい。青森県で農家の一番の悩みが後継者、担い手不足です。その中で農業科を減らすというのは、これを助長させるのではないかと。本来ある子どもたちの選択するものを減らしてはいけないと思う。県として、農業人口を減らすのは好まないと思う。	青森県立高等学校教育改革推進計画は、グローバル化等の社会の急速な変化、国による教育改革、高校へ入学する生徒の多様化、中学校卒業予定者数の減少といった状況で、本県の生徒一人一人にこれからの時代に求められる力を育むために進めるものです。各校の学校規模等については、学校規模の標準を踏まえ、地区の普通科等、職業教育を主とする専門学科、総合学科の選択肢を確保するとともに、中学校卒業予定者数、志願・入学状況等を考慮し決定したものです。
	6	2年先の募集人員の見込みも公表するという点はすばらしい配慮だと思った。	第1期実施計画においては、これまで翌年度分のみを公表してきた募集人員について、中学生が見通しを持って進路選択できるよう、翌々年度分の見込みを含め公表することとしました。
	7	高校は地域のシンボルであり、閉校は町の活気を失わせます。ただ、だからといって闇雲に存続を主張するのも違うと思う。一定規模の学級数を維持し教育活動の質の向上は生徒のためにも必要であると思う。子供の数が減っているのだから再編はやむを得ない。ただ、現在の高校生は動揺させたくない。	各県立高校は、生徒一人一人に生きる力等を育むため、地域の方々に支えられ、地域の資源を活用した様々な取組を行っています。一方、現在でも高校の小規模化が進み、さらに生徒数の急激な減少が見込まれる中、未来を担う子どもたちに充実した教育環境を整備するため、統合を含む計画的な学校配置を進めるものです。 また、統合等に当たっては、対象となる学校の教育活動を維持できるよう、適正な教職員配置や生徒の活動の場の確保に努めることとしています。
	8	（中学生ももちろん）序列化されることで引け目に感じることはないよう、教職員がしっかり胸を張って生徒に向き合ってほしいと思う。	第1期実施計画では、全ての高校において、生徒一人一人がこれからの時代に求められる力を身に付けるため、学習意欲の向上に十分配慮しながら、各校が創意工夫するとともに相互に連携し、生徒の進路志望や地域の期待等に応えることができるよう、それぞれの特色を生かした魅力ある教育活動の推進に取り組むこととしています。

分類	No	提出された意見等	意見等に対する県教育委員会の考え方
その他	9	現在までの実施計画（案）の説明も必要だと思いますが、保護者としてもいつから実施するのかをはっきりさせてほしい。進学先も変更しなければならないかどうなのかわからないので困ります。学校からも何の説明もないので、子供が戸惑ってます。早く決定させてうちだしてください。親としては他校の説明はいりません。	第1期実施計画において、統合や募集停止の年度については明示しているところです。 県立高校の募集人員については、毎年度各高校の入学者数を確認した上で、翌年度以降の中学校卒業予定者数の見込み等を踏まえながら決定しています。このため、年度ごとの入学者数の変化を踏まえる必要があり、5年間を計画期間とする実施計画においては学級減の実施年度を明示せず、年度ごとに募集人員を発表することとしています。なお、第1期実施計画においては、これまで翌年度分のみを公表してきた募集人員について、中学生が見通しを持って進路選択できるよう、翌々年度分の見込みを含め公表することとしました。
	10	金太郎あめ的な教育ではなく、個性を伸ばしてやる教育をしてほしい。	基本方針では、それぞれの生徒の興味・関心、進路志望等に応えるため、全日制課程における計画的な学校規模・配置に当たっての観点の一つである高校教育を受ける機会の確保として、各地区における中学生の進路の選択肢の確保することとしています。具体的には、6地区ごとに、大学等への進学や就職等より幅広い進路選択に対応する高校、選抜性の高い大学への進学に対応する高校、実践的な職業教育に対応する高校等、それぞれの役割を担う高校を配置し、中学生の進路志望に応じた高校の選択肢を確保することとしています。
	11	高校へ行って勉強がしたい、もっと上の学校へ進みたいという子供達が一人居ても多く学べるように。	
	12	他県の比較で、学力の見劣りがないように頑張ってもらいたい。	基本方針では、生徒一人一人に「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和の取れた「生きる力」を育むこととし、特に「確かな学力」の育成においては、基礎的・基本的な知識・技能、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力、主体的・協働的に学習に取り組む意欲等を育むこととしています。 この基本方針を踏まえ、第1期実施計画では、全ての高校に共通して求められる教育環境として、課題の発見と解決に向けた主体的・対話的で深い学びの実践、社会人・職業人として自立するために必要な能力や態度の涵養、ICTの活用による教育活動の充実、発達障害等の特別な支援を必要とする生徒への対応を掲げたところです。
	13	学級数減により学校内での学力差が大きくなるのが予想されるが、それが学校及び地域全体、さらには県全体の学力低下につながらない対応をお願いします。	また、一定の規模を有する普通科等の重点校、職業教育を主とする専門学科の拠点校を配置し、これらの学校が取り組む教育活動への各校の生徒の参加や、学習成果の共有等の連携により、特色ある教育活動を充実させ、生徒数が減少する中であっても、県全体の高校教育の質の確保・向上を図ることとしています。
	14	県教育委員会の方々も大変だとは思いますが、公務員だけでなく、他業種の方々も交えて協議していった方がよいと思う。	平成26年度に設置した青森県立高等学校将来構想検討会議は学識経験者、高校関係者、保護者に加え、産業界関係者、市町村教育委員会関係者、地域関係者等で組織し、幅広い立場の方々から御意見を伺ったところです。 また、平成28年度には、市町村教育委員会教育長、PTA関係者、産業界関係者により組織する地区意見交換会を県内6地区に設置し、地域の実情を踏まえながら、各地区の具体的な学校配置等について御意見を伺ったところです。 これらの取組を経て、第1期実施計画を策定したものです。
	15	第1期で学校数が変化していく場合、第2期の減についての見通しも必要であると思う。	第1期実施計画においては、第2期における各地区の学級減の見通しをお示ししたところです。具体的な学校配置を含めた第2期実施計画策定に当たっては、第1期実施計画の取組状況について検証した上で、地区意見交換会を開催するなど、御意見を伺いながら改めて検討することとしています。
16	むつ工業高校・大湊高校を統合する案があるが、候補地（統合後の学校はどちらか？）を早めに決めてほしい。		
西北地区	17	五所川原高校に以前設置されていた衛生看護科の再設置を希望します。看護師の必要性はまだあると思います。	本県の県立高校では、以前、黒石高校、三沢高校、五所川原高校、田名部高校の4校に衛生看護科が設置されていましたが、平成11年度の保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部改正により、高校3年間の准看護師養成が難しくなったことから、現在は黒石高校にのみ看護科を設置し、専攻科と合わせた5年一貫教育による看護師養成を行っているところです。 看護師養成施設としては、高校のほか、大学、短期大学、専門学校等がある中、県立高校における看護科の新たな設置については、中学生のニーズ等を踏まえ、必要性を検討します。
中南地区	18	弘前実業高校の農業経営科からすぐに農業に就業する生徒たちは何人いるのだろうか。	県教育委員会が実施した進路状況調査によれば、弘前実業高校農業経営科を平成24年から平成28年3月の5年間に卒業した生徒のうち、直ちに農業に就業した生徒の数は平均で0.2人となっております。

分類	No	提出された意見等	意見等に対する県教育委員会の考え方
中南地区	19	尾上総合高校がなぜあるのか。地元からの通学生が少ないのではないかと。そこに通う生徒を弘前市及び黒石市内の高校で吸収した方が生徒のためになるのではないのでしょうか。	尾上総合高校は中南地区唯一の3部制の定時制課程と通信制課程を置く高校となっております。定時制課程・通信制課程は、様々な事情を抱える生徒に広く高校教育を受ける機会を提供する役割を果たしていくため、東青地区、中南地区、三八地区に3部制の定時制課程の高校を設置するとともに、西北地区、上北地区、下北地区に夜間定時制課程の高校を設置しているところです。このことを踏まえ、尾上総合高校の在り方については、中南地区全体の視点から検討する必要があると考えます。
三八地区	20	五戸高校に八戸西のスポーツ科を移管させてはどうですか。五戸高校の特色となりますし、オリンピックの銀メダル選手を輩出している地区でありますので、ぜひ実施を考えてください。	今後更なる生徒数の減少が見込まれる中、生徒一人一人にこれからの時代に求められる力を育むためには一定の学校規模が必要と考えています。このことから、基本方針で示した学校規模の標準を踏まえ計画的な学校配置に取り組むものです。 なお、理数科、外国語科、スポーツ科学科、表現科については、引き続き、専門学科としての役割、中学生のニーズ等を十分に検証し、その結果に応じて見直しを図ることとしています。
	21	五戸高校については、グローバル化に対応して、中国語、韓国語など特別な教育を東北で最初に行えば良い。	本県では、青森南高校外国語科においてロシア語に関する科目を開設しております。また、他県の高校においては、岩手県立不来方高校において、外国語学系を設置し中国語、フランス語に関する科目を開設している例があります。 学科等の新たな設置については、中学生のニーズ等を踏まえ、その必要性を検討します。